





# 風が音楽になる

TN-4D-WA (ウォルナット)

森で耳を澄ます。  
 木々の間を遊ぶ風は、やがて心に響く音楽になる。  
 回転しているレコードに針を落とす。  
 聞こえてくるのは思い出の曲でしょうか。  
 レコードの音も、なぜか心に響きます。  
 時にやさしく、時に突き刺さるように。  
 音楽がデジタルになった今でも、無くしてはいけないものがあるのです。

ピアノブラック



TN-4D

ボーカルやソロ楽器をしっかりと聴かせる  
 アメリカSUMIKO社製カートリッジ搭載  
 ダイレクトドライブ・ターンテーブル

チェリー



TN-3B

クリアでワイドレンジ  
 オーディオテクニカAT-VM95Eを標準搭載  
 ベルトドライブ・ターンテーブル

ウォルナット



TN-400BT Bluetooth

置き場所を選ばない本格派  
 Bluetooth®トランスミッター搭載  
 ベルトドライブ・ターンテーブル

## TEAC

ティアックは1953年創業の日本のオーディオブランドです。

掲載製品は全てオープンプライスです。

製品の詳細はこちらのQRコードからまたは [teac.jp/jp](http://teac.jp/jp)



確かなものを心ゆくまで、世界の銘器をあなたのもとへ!



### Flutes Salon & Powell Flutes Japan

フルートサロン&パウエル・フルート・ジャパン  
 パウエル・フルート・ジャパンとワールド・フルート・サロンから  
 構成された広々としたゴージャスなサロン。



### Brass Instruments Salon

金管楽器サロン  
 トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、テューバの  
 オリジナルブランドをはじめとしたトップブランドを一堂に。



### Wood Wind Instruments Salon

木管楽器サロン  
 ラグジュアリーで落ち着いた空間、クラリネット、オーボエ、  
 ファゴットの一流ブランドをコレクション。



### Saxophones Salon

サクソフォーンサロン  
 クラシカルな雰囲気とモダンなテイストを融合させたスペース。  
 サックス奏者の多彩なミュージックライフをサポート。

### Powell Flutes Japan Artists Salon "Dolce"

100名キャパシティの  
 瀟洒なサロン。  
 スタインウェイピアノ、  
 録音録画機材など  
 備えています。



### Dolce Tokyo Music Academy

ドルチェ東京ミュージックアカデミー

管楽器の一流演奏家による、一流のレッスンが気楽にお受けいただけます

- ・便利なロケーション
- ・一流の講師陣
- ・ライフスタイルにあったシステム
- ・リスニングレッスン導入
- ・年に一度発表会を開催



入学随時。www.dolce.co.jp 専用電話 03-5909-1770

### 取り扱いブランド

#### 木管楽器

Powell	Williams	Backun	Burkart	Altus	Marigaux	W.Schreiber	Selmer Paris
Haynes	GUO	R.Orsi	Yamaha	Flute Masters	Josef	Püchner	B.Crampon
Brannen	FLorée	Heckel	Sankyo	Hammig	Rigoutat	Adler	Yanggisawa
Braun	R.Dupin	Leitzinger	Miyazawa	Keefe	Fox	B.Moosmann	J.Keilwerth
Faulisi	H.Wurlitzer	EXT	Pearl				

#### 金管楽器

E.Schmid	Throja	EXT	Hans Hoyer	B & S	Schagerl
D.Otto	Haag	V.Bach	Ricco Kühn	Meinl Weston	Courtois
Dürk	Littin	Schilke	Paxman	Wenzel Meinl	King
S.W.Lewis	Lechner	Yamaha	Holtan	Willson	
Lukas	DTS	Conn	Getzen	XO	
Juhász Zoltán	TAD	Alexander	Besson		

※太字はオリジナルブランドです。

### DMC (ドルチェ・ミュージック・クラブ) 会員募集中!

入会金、年会費など無料で、特典がたくさんつきます。  
 ドルチェのコンサートも会員価格でお求めになれます。

### ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京 パウエル・フルート・ジャパン



dolce ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京  
 www.dolce.co.jp

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-13-12 西新宿昭和ビル8F  
 TEL.03-5909-1771 FAX.03-3345-1388  
 10:30am~7:00pm 木曜定休(木曜日が祝日の場合、営業)  
 tokyo@dolce.co.jp

POWELL & POWELL FLUTES since 1927 パウエル・フルート・ジャパン

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-13-12 西新宿昭和ビル8F  
 TEL.03-5339-8383 FAX.03-5339-8384  
 10:30am~7:00pm 木曜定休(木曜日が祝日の場合、営業)  
 flute@powell-japan.com

# MONTHLY ORCHESTRA 4

読売日本交響楽団 月刊オーケストラ 2021年4月号 目次

## 感染予防対策へのご協力をお願い

- マスクの着用、咳エチケットの実践をお願いいたします。マスクを着用されない方の入場はお断りいたします。
- 会場内では極力会話をお控えくださいようお願いいたします。「プラボー」などの掛け声も禁止させていただきます。
- 終演後は出口付近の密集を緩和するため、時差退場へのご協力をお願いいたします。
- 感染者が発生した場合など、必要に応じて保健所等の公的機関へお客様の情報を提供させていただく可能性がございます。なお、チケットご購入者様と当日のご来場者様が異なる場合には、ロビーにて「来場者登録用紙」にご記入ください。
- 楽屋口等での出演者との面会・サインはお断りいたします。

## 演奏をお楽しみいただくために



写真撮影・録画・録音はお断りいたします。



携帯電話の電源、時計のアラームはお切りください。補聴器はしっかり装着してください。キーホルダーの鈴やアメの包み紙の音などにもご注意ください。



演奏中にプログラムをご覧になる際は、ページをめくる音にご配慮ください。



拍手はタクトが降るされてから。消えゆく余韻は生演奏の醍醐味です。その貴重な時間を、ぜひご堪能ください。

## 4月の演奏会

4/6 定期演奏会

4/21 川崎マチネーシリーズ

4/24 土曜マチネーシリーズ

4/25 日曜マチネーシリーズ

4/30 名曲シリーズ

## 4月のマエストロ&アーティスト

## 4月の楽曲紹介

## 優人のちょっと一息フェルマータ

第4回 鈴木優人

読響ニュース

団員紹介

日テレコーナー 読響プレミア放送予定

読響賛助会員

読響メンバー

読響プロフィール

2

6

12

24

25

26

27

28

32

36

4/6 Tue.

第607回 定期演奏会  
サントリーホール 19時開演  
SUBSCRIPTION CONCERT No. 607 / Suntory Hall 19:00

指揮  
Conductor  
ヴァイオリン  
Violin  
コンサートマスター  
Concertmaster

細川俊夫  
HOSOKAWA

デュティユー  
DUTILLEUX

[休憩]  
[Intermission]

マーラー  
MAHLER

マーラー  
MAHLER

カーチュン・ウォン -p.6

KAHCHUN WONG

諏訪内晶子 -p.9

AKIKO SUWANAI

小森谷巧

TAKUMI KOMORIYA

冥想 - 3月11日の津波の犠牲者に捧げる -

[約14分] -p.12

Meditation - to the victims of Tsunami 3.11-

ヴァイオリン協奏曲〈夢の樹〉 [約26分] -p.13

Violin Concerto "L'arbre des songes"

I. Librement - Interlude 1

II. Vif - Interlude 2

III. Lent - Interlude 3

IV. Large et animé

交響詩〈葬礼〉 [約23分] -p.14

Totenfeier

交響曲 第10番 嬰へ長調 から “アダージョ”

[約25分] -p.15

"Adagio" from Symphony No. 10 in F sharp major

※当初の発表から出演者と曲目が一部変更されました。

4/21 Wed.

第1回 川崎マチネーシリーズ  
ミューザ川崎シンフォニーホール 14時開演  
KAWASAKI MATINÉE SERIES No. 1 / Muza Kawasaki Symphony Hall 14:00

指揮  
Associate Conductor & Creative Partner

ピアノ  
Piano

コンサートマスター  
Concertmaster

チャイコフスキー

TCHAIKOVSKY

[休憩]  
[Intermission]

ドヴォルザーク

DVOŘÁK

鈴木優人 (指揮者/クリエイティブ・パートナー) -p.7

MASATO SUZUKI

小山実稚恵 -p.9

MICHIE KOYAMA

小森谷巧

TAKUMI KOMORIYA

ピアノ協奏曲 第1番 変口短調 作品23 [約32分] -p.16

Piano Concerto No. 1 in B flat minor, op. 23

I. Allegro non troppo e molto maestoso - Allegro con spirito

II. Andantino semplice

III. Allegro con fuoco

交響曲 第9番 ホ短調 作品95

〈新世界から〉 [約40分] -p.17

Symphony No. 9 in E minor, op. 95 "From the New World"

I. Adagio - Allegro molto

II. Largo

III. Molto vivace

IV. Allegro con fuoco

4/24 Sat.

第236回 土曜マチネーシリーズ  
東京芸術劇場コンサートホール 14時開演  
SATURDAY MATINÉE SERIES No.236 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

4/25 Sun.

第236回 日曜マチネーシリーズ  
東京芸術劇場コンサートホール 14時開演  
SUNDAY MATINÉE SERIES No.236 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

指揮  
Special Guest Conductor  
ヴァイオリン  
Violin  
コンサートマスター  
Concertmaster

ベルリオーズ  
BERLIOZ

サン＝サーンス  
SAINT-SAËNS

[休憩]  
[Intermission]

ムソルグスキー (ラヴェル編)  
MUSSORGSKY (arr. RAVEL)

小林研一郎 (特別客演指揮者) -p.8

KEN-ICHIRO KOBAYASHI

福田廉之介 -p.10

RENNOSUKE FUKUDA

長原幸太

KOTA NAGAHARA

序曲〈ローマの謝肉祭〉 作品9 [約8分] -p.18

Le carnaval romain, op. 9

ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 作品61

[約29分] -p.19

Violin Concerto No. 3 in B minor, op. 61

I. Allegro non troppo

II. Andantino quasi allegretto

III. Molto moderato e maestoso – Allegro non troppo

組曲〈展覧会の絵〉 [約35分] -p.20

Pictures at an Exhibition

I. プロムナード – I. グノームス (こびと) – プロムナード

II. 古城 – プロムナード

III. テュイルリー (遊びの後の子供たちの喧嘩)

IV. ビドロ (牛車) – プロムナード

V. 殻をつけた雛鳥のバレエ

VI. サムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ (金持ちのユダヤ人と貧しいユダヤ人)

VII. リモージュ (市場)

VIII. カタコンブ (古代ローマの地下墓地) – 死せる言葉による死者への呼びかけ

IX. 鶏の足の上の小屋 (バーバ・ヤガー=民話上の妖婆)

X. キエフの大門

4/30 Fri.

第641回 名曲シリーズ  
サントリートホール 19時開演  
POPULAR SERIES No.641 / Suntory Hall 19:00

指揮  
Associate Conductor & Creative Partner  
箏  
Koto  
コンサートマスター  
Concertmaster

リムスキー＝コルサコフ  
RIMSKY-KORSAKOV

藤倉大  
DAI FUJIKURA

[休憩]  
[Intermission]

ベートーヴェン  
BEETHOVEN

鈴木優人 (指揮者/クリエイティブ・パートナー) -p.7

MASATO SUZUKI

LEO -p.10

LEO

林 悠介

YUSUKE HAYASHI

〈ロシアの復活祭〉序曲 作品36 [約14分] -p.21

Russian Easter Overture, op. 36

箏協奏曲 (管弦楽版/世界初演) [約20分] -p.22

Koto Concerto (Orchestra version/ World premiere)

交響曲 第7番 イ長調 作品92 [約36分] -p.23

Symphony No. 7 in A major, op. 92

I. Poco sostenuto - Vivace

II. Allegretto

III. Presto

IV. Allegro con brio

指揮

カーチュン・ウォン

KAHCHUN WONG, Conductor



©Hisao Suzuki

## 世界が注目する鬼才が振る マーラーの遺作

2016年のマーラー国際指揮者コンクールで優勝して世界の脚光を浴びた気鋭が、得意のマーラー作品などで読響《定期》にデビューを果たす。

1986年シンガポール生まれ。7歳でトランペットを始めシンガポール軍楽隊に加わった後、シンガポール国立大学で作曲を学ぶ。その後、ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学に進学した。巨匠クルト・マズア晩年の愛弟子として学び、さらにドゥダメル、ゲルギエフ、ネゼ=セガン、サロネンのアシスタントを務めた。これまでに、ニューヨーク・フィル、ロサンゼルス・フィル、チェコ・フィル、ベルリン・コンツェルトハウス管、トゥールーズ・キャピトル国立管、ロイヤル・リヴァプール・フィルなど、世界の著名オーケストラを指揮。2018年9月からニュルンベルク響の首席指揮者を務めている。

アジアのオーケストラとも数多く共演。急病のロベス=コボスに代わって急遽、中国フィル、上海響、広州響を指揮し喝采を浴びたほか、シンガポール響、東京フィル、東京響、新日本フィル、大阪響、京都市響、名古屋フィル、広島響、九州響など、日本の楽団からも頻りに招かれている。音楽教育にも熱心に取り組み、母国シンガポールでは、マーラーの孫娘であるマリーナ・マーラーと共に、子供たちに音楽を楽しむ機会を提供するプロジェクト・インフィニチュードを創設した。

読響とは19年2月《都民芸術フェスティバル》で初共演し、翌月の目黒区公演でも好評を博した。今回が3回目の登場となる。

指揮

鈴木優人

(指揮者/クリエイティブ・パートナー)

MASATO SUZUKI,  
Associate Conductor & Creative Partner

©読響

## 新時代の旗手が振る 名曲&新作の箏協奏曲

マルチな才能で時代を切り拓くホープが、〈新世界〉やベートーヴェン7番などの名曲を鋭いセンスと解釈で指揮し、新たな魅力を引き出す。

1981年オランダ生まれ。東京芸術大学および同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。指揮者として国内外のオーケストラと共演するほか、鍵盤楽器奏者としても活躍している。音楽監督を務めるアンサンブル・ジェネシスでは、オリジナル楽器でバロックから現代音楽まで意欲的なプログラムを展開している。

2018年にバッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) の首席指揮者に就任。BCJとは15年にバッハ〈マタイ受難曲〉、17年にモンテヴェルディの歌劇〈ポッペアの戴冠〉を指揮して絶賛され、昨秋にはヘンデルの歌劇〈リナルド〉を上演し注目を浴びた。また、19年から世界的ヴィオラ奏者タメスティとのデュオでチェンバロを弾く「バッハ・プロジェクト」を開始し、ヴェルビエ音楽祭などに出演している。

作曲家としても活躍するほか、13年から調布国際音楽祭のエグゼクティブ・プロデューサーを務めるなど、多岐にわたり活動している。NHK-FM「古楽の楽しみ」にレギュラー出演中。ホテル・オークラ音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。20年4月に読響の指揮者/クリエイティブ・パートナーに就任。コロナ禍による活動中止後の再開最初の演奏会や11月の《第603回定期演奏会》《第27回読響アンサンブル・シリーズ》などでの活躍が評価され、21年3月に第71回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞した。

4/24  
土曜マチネー4/25  
日曜マチネー

Maestro

指揮

**小林研一郎**  
(特別客演指揮者)

KEN-ICHIRO KOBAYASHI, Special Guest Conductor

“炎のマエストロ”が描く  
絢爛豪華な〈展覧会の絵〉

©読響

81歳を迎え、ますます円熟味を深める世界的指揮者。ムソルグスキー〈展覧会の絵〉を熟達のタクトで鮮やかに描き、終曲“キエフの大門”ではオーケストラを壮大に響かせるだろう。

1940年福島県いわき市出身。東京芸術大学作曲科および指揮科を卒業。74年第1回ブダペスト国際指揮者コンクール第1位、特別賞を受賞。これまでハンガリー国立響の音楽総監督をはじめ、チェコ・フィル常任客演指揮者、日本フィル音楽監督など国内外の数々のオーケストラのポジションを歴任している。2002年5月の「プラハの春音楽祭」では、東洋人として初めて開幕コンサートに招かれ〈我が祖国〉全曲をチェコ・フィルと演奏し、絶賛された。ハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、星付中十字勲章、ハンガリー文化大使の称号、そして20年3月には同国で最高位となるハンガリー国大十字功労勲章を授与された。国内では11年に文化庁長官表彰、13年に旭日中綬章受章、21年3月に恩賜賞・日本芸術院賞を受賞。チェコ、オランダでも文化を通じた国際交流や社会貢献に寄与し、長年にわたり重責を担ってきた。

現在、日本フィル桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィルおよび名古屋フィルの桂冠指揮者、群馬響ミュージック・アドバイザー、九州響名誉客演指揮者、東京芸術大学およびリスト音楽院（ハンガリー）名誉教授の任にあるほか、長野県芸術監督団の音楽監督、ロームミュージックファンデーションの評議員を務めている。録音では、14年4月から読響と取り組んだブラームスの交響曲全集が好評を博す。



©Kiyotaka Saito

ヴァイオリン

**諏訪内晶子**

AKIKO SUWANAI, Violin

人気・実力ともに日本を代表するピアニスト。チャイコフスキー、ショパンの二大コンクールに入賞した唯一の日本人。2006～17年の「12年間・24回サイタルシリーズ」は、演奏内容と企画性が高く評価された。19年春からは新シリーズ「ベートーヴェン、そして…」を展開している。国内外主要オーケストラとの共演も多く、協奏曲のレパートリーは60曲を超える。東日本大震災以降、被災地で演奏を行い、自ら企画立案した「こどもの夢ひろば“ボレロ”」を開催。CDは『レコード芸術』の特選盤に選ばれたベートーヴェンの「ハンマークラヴィーア・ソナタ他」（ソニー）に続き、32枚目となるベートーヴェン・アルバム第2弾「ピアノ・ソナタ第30、31、32番」を6月にソニーからリリース予定。著書に『点と魂と』。16年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞、17年度紫綬褒章受章。読響とは、たびたび共演を重ねている。

世界各地で活躍する国際派。1990年に史上最年少でチャイコフスキー国際コンクールに優勝。これまでに小澤征爾、マゼール、サヴァリッシュ、ゲルギエフ、スクロヴァチェフスキらの指揮で、ベルリン・フィル、パリ管、ロンドン響、ボストン響、ニューヨーク・フィルなど国内外の主要楽団と共演。幅広いレパートリーを持ち、近現代作品の演奏にも定評がある。BBCプロムス、ルツェルンなどの国際音楽祭にも多数出演、2012年より自ら企画した「国際音楽祭NIPPON」の芸術監督も務める。19年チャイコフスキー国際コンクール審査員。使用楽器は、日本にルーツをもつ米国在住のDr. Ryuji Uenoより長期貸与された1732年製作のガールネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。パリ在住。読響とは18年9月以来の共演となる。



©Hiromichi Uchida

ピアノ

**小山実稚恵**

MICHIE KOYAMA, Piano

4/6  
定期

Artist

4/21  
川崎

Artist

4/24  
土曜マチネー

4/25  
日曜マチネー

Artist



ヴァイオリン

福田廉之介

RENNOSUKE FUKUDA, Violin

柔軟な発想力とひらめきを持つ新鋭。1999年岡山県生まれ。2013年シェンタール国際コンクール・ジュニア部門優勝。14年メニューイン国際コンクール・ジュニア部門優勝。スイスのシオンの音楽学校をわずか1年で首席卒業し、16年からローザンヌ高等音楽院で学ぶ。17年ハイフェッツ国際コンクール第3位、ヴァルセシア・ムジカ国際コンクール優勝。18年ハノーファー国際コンクール第4位。現在、ジャーヌ・ヤンセンに師事。これまでD. ユロフスキ、G. グレーロ、山田和樹らの指揮で、クリーヴランド管、ロンドン・フィル、モスクワ・フィル、ハノーファー北ドイツ放送フィルなどと共演。17年、ギトリス賞を受賞。昨年1月、日本コロムビアから初のソロCDをリリース。室内オーケストラ「The MOST」を結成し活動を始動した。今回が読響初登場。

4/30  
名曲

Artist

ジャンルを超えて箏の新たな魅力を追求する新星。1998年横浜生まれ。横浜インターナショナルスクールで9歳のときに箏と出会い、カーティス・パターソンの指導を受け、のちに沢井一恵に師事。14歳で全国小中学生箏曲コンクールのグランプリ、日本を代表するコンクールの一つ「くまもと全国邦楽コンクール」で史上最年少の16歳で最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞した。一躍脚光を浴び、2017年にアルバム『玲央1st』でメジャーデビュー。これまで、秋山和慶、沖澤のどかの指揮で東京フィル、神奈川フィルと共演している。NHK「にっぽんの芸能」、TBS系テレビ「情熱大陸」、テレビ朝日「徹子の部屋」「題名のない音楽会」など多くのメディアに出演。「第29回出光音楽賞」受賞。現在、沢井箏曲院講師。東京芸術大学在学中。読響初登場。



箏

LEO

LEO, Koto

Accuphase

enrich life through technology

感動の余韻・・・

あなたが聴いた名演奏を  
アキュフェーズのラインナップでお楽しみください。



新製品

SA-CD/CDプレーヤー **DP-570**

希望小売価格 650,000円(税別)



新製品

90W/ch(8Ω)  
インテグレートッド・ステレオアンプ **E-280**

希望小売価格 330,000円(税別)

アキュフェーズ株式会社

※アキュフェーズ製品の保証期間は5年間です。  
但し、CDプレーヤーなどは3年間、MCカートリッジは1年間です。

●カタログ請求は 〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10 アキュフェーズ(株)宣伝課D係  
TEL.045-901-2771(代) FAX.045-901-8959 <https://www.accuphase.co.jp/>

IASI  
International Audio Society of JAPAN

## 細川俊夫

## 冥想—3月11日の津波の犠牲者に捧げる—

細川俊夫(1955～)は広島に生まれ、ドイツでクラウス・フーバー、ユン・イサン(尹伊桑)に作曲を師事した。80年代に数々の国際作曲賞を受賞して頭角をあらわしてから、これまでの日本の作曲家にはなかった深度で世界の音楽界を席卷。そのひとつひとつの作品が、いまや「ヨーロッパの現代音楽」への厳しい批評として畏怖されているという事実の重さは、いくら強調してもしすぎることはない。また、国内に目を向けてみても、彼の存在がなければ、ここ20年の日本の作曲界はまるで異なった様相を呈していたはずだ。

〈冥想〉は2012年、統営<sup>トンヨン</sup>音楽祭の委嘱で書かれた15分弱の作品。統営は朝鮮半島、釜山のやや南に位置する美しい港町だが、ここは細川の師ユン・イサンの生地でもあり、毎年大規模な国際音楽祭が行われている。

楽曲全体を通して指摘できるのは、この3年後の2015年にハンブルクで初演されることになるオペラ〈海、静かな海〉との密接な関係だ。冒頭でとどろく大太鼓の地鳴り、そして底知れない不安と静かな祈りが重なり合っていく音のイメージは、この管弦楽曲とオペラを強く結びつけている。多少大胆に言うならば、〈海、静かな海〉はこの管弦楽曲をオペラ化したものということにもなる。

曲は大太鼓の低いうなりに始まる(「宇宙の鼓動」とスコアに記されている。以下同)。そこから静かに旋律が湧き出してくるが(「書」)、苦悶に満ちた弦楽器の独奏を経て、一旦音の動きが静まるとフルートの独奏(「冥想」)が流れだす。バスクラリネットの響きが弦楽器の中に浮かんだあと(「哀歌」)、旋律はやがてオーボエに受け継がれて(「怖れ」)、徐々にオーケストラ全体を巻き込み、ついには悲劇的な様相を呈する。しかし、最後の長いコーダ部分(「祈り」)では、弦のグリッサンドによるたゆまいと共に音楽は静まり、一片の希望と安らぎを示唆しながら曲は閉じられる。

〈沼野雄司 音楽学〉

作曲：2012年／初演：2012年3月23日、統営(韓国)、アレクサンダー・リープライヒ指揮／演奏時間：約14分

楽器編成／フルート2(ピッコロ、アルトフルート持替)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン持替)、クラリネット、バスクラリネット、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、打楽器(大太鼓、トライアングル、アンティーク・シンバル、ボンゴ、ウッドブロック、リン、銅鑼)、弦五部

## デュティユー

## ヴァイオリン協奏曲〈夢の樹〉

フランスのアンリ・デュティユー(1916～2013)は、同時代の多様な音楽に触れながら伝統を受け継ぎ、保守でも前衛でもない、独特の洗練された響きの音楽を作り上げた作曲家である。読響では生誕100年の2016年、当時の常任指揮者(現桂冠指揮者)カンブルランによって、交響曲第2番〈ル・ドゥーブル〉(1957～59)、チェロ協奏曲〈遙かなる遠い世界〉(1967～70)、〈音色、空間、運動〉(1976～78)と、デュティユーの代表作が紹介された。そして、1985年にパリで初演されたヴァイオリン協奏曲〈夢の樹〉は、ラジオ・フランスの委嘱で、名ヴァイオリニスト、アイザック・スターン(1920～2001)の還暦のお祝いのために書かれた(ただし還暦には間に合わず)。独奏ヴァイオリンの技巧性と詩的な叙情が際立ち、4楽章の間に3つの間奏曲が挟まれ、切れ目なく演奏される。

**第1楽章** リーブルマン(自由に) 独奏ヴァイオリンが静かに歌い出す。やがて振幅が大きくなり強烈なトリルに入り、管弦楽はハンガリーの民族楽器ツィンパロンが独特の色彩感を与える。**間奏曲1** バスクラリネットのソロで始まり、低音のうごめきは次第に輝きを得て、独奏ヴァイオリンにつなぐ。**第2楽章** ヴィフ(快活に) 独奏ヴァイオリンが3連符の連続で活発に動き回り、**間奏曲2** 3連符の運動は管弦楽に移され、さらにテンポを上げる。**第3楽章** ラン(ゆっくりと) ゆるやかな独奏ヴァイオリンが夢想的な世界を彷徨う。**間奏曲3** 演奏前のチューニングを想起させるA音(イ音)中心のパスセージが広がる。**第4楽章** ラルジュ・エ・アニメ(ゆとりをもって生き生きと) 独奏ヴァイオリンが技巧を示した後、瞑想的な音楽で揺れ動き、再びエネルギーを高めて最後は急降下する。

〈夢の樹〉のタイトルは、作曲者によると、樹木が常に新しい枝を伸ばし成長するイメージを作品と重ねた。「響きの樹」「叙情の樹」も候補にあったという。

〈柴辻純子 音楽評論家〉

作曲：1983～85年／初演：1985年11月5日、パリ／演奏時間：約26分

楽器編成／フルート2、ピッコロ、オーボエ3(オーボエ・ダモーレ持替)、クラリネット2、エスクラリネット、バスクラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン3、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(小太鼓、サスペンデッド・シンバル、アンティーク・シンバル、ボンゴ、鐘、トムトム、銅鑼、ヴィブラフォン)、弦五部、ハープ、ピアノ、チェレスタ、ジュ・ドゥ・タンブル、ツィンパロン、独奏ヴァイオリン

マーラー  
交響詩〈葬礼〉

交響詩か、交響曲か。若きグスタフ・マーラー（1860～1911）はこの二つの合間で揺れていた。交響曲第1番〈巨人〉は、1889年の初演の際には「2部からなる交響詩」と銘打たれていたが、93年の再演の際には「巨人—交響楽形式による音詩」と改められ、交響曲として演奏されたのは96年のことであった。

〈葬礼〉は〈巨人〉初演の前年、1888年に完成している。自筆譜表紙のタイトルの下にマーラーはひとたび「交響曲 八短調」と書き込んだものの、あとからこの部分を削除している（その下の「第1楽章」の書き込みはそのまま残された）。つまりこの時点では、〈葬礼〉は作曲家最初の交響曲になっていたかもしれないのである。ところが、1891年に自作をショット社（楽譜出版社）に売り込んだ際の作品目録では〈葬礼〉は「交響詩」と紹介されており、出版も演奏もされないままひとたびお蔵入りした後、1893年から翌年にかけて交響曲第2番〈復活〉を作曲する過程で、その第1楽章へと組み入れられた。

ところで〈葬礼〉を作曲した年、マーラーはブダペストの歌劇場に<sup>ぼってき</sup>指揮者として出世街道を駆け上がっていく。これは「交響詩か、交響曲か」という迷いを払拭するきっかけになっただろう。マーラーは劇場が休みになる夏の休暇に創作に没頭するのが常だったが、そうした創作姿勢は〈復活〉から始まる。

〈葬礼〉を後に改訂された〈復活〉の第1楽章と比べると、曲の半ば、冒頭の激しい闘争のモチーフが回帰し、低弦が引きずるように葬送行進曲を始めるあたりが〈葬礼〉では少々長いのが目に付くくらいで、流れに大きな変更はない。改稿の主たる眼目はオーケストレーションの拡大・精緻化にあるが、それは指揮者としての経験値がもたらしたものであっただろう。管弦楽法に抜群のセンスを見せたマーラーの、スタイル確立途上の試行錯誤が生々しくうかがわれて興味深い。

〈江藤光紀 音楽評論家〉

作曲：1888年完成／初演：1896年、作曲家自身の指揮による。オリジナル譜は初演1983年、出版1988年／演奏時間：約23分

楽器編成／フルート3（ピッコロ持替）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット3、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器（大太鼓、トライアングル、シンバル、サスペンデッド・シンバル、銅鑼）、ハーブ、弦五部

マーラー  
交響曲 第10番 嬰へ長調 から“アダージョ”

マーラー最後の交響曲となる第10番は、1910年7月にトーブラッハの作曲小屋で書き始められ、大まかな曲の流れを記した4段の略式譜表は一通り完成されたものの、総譜の完成をみないまま、作曲家は翌年5月に世を去った。マーラーの頭の中で鳴っていたであろう音楽の“復元”の試みは、妻アルマからスコアを託されたエルンスト・クルシェネク版（第1、3楽章のみ、1924年初演）に始まり、戦後も続けられた。現在では全5楽章が演奏可能だが、補筆者の意向が少なからず入り込むため、オーケストレーション上の濃淡があるとはいえ曲がりなりにもマーラー自身による全体のスコアが存在する第1楽章“アダージョ”だけを独立して演奏することも多い。

どこに向かうのか分からないヴィオラの不安定な旋律に始まり、甘美でたっぷりとした主題の合間に、悪魔的・道化的なヴァイオリンの旋律や破滅的な不協和音の爆発などが挟まれている。アダージョを交響曲の第1楽章に配置することも含め、様式上の新たな模索をうかがわせるが、それまでの作品以上に激しい亀裂を見せる甘さと不安、諧謔の同居、退嬰感には、精神的に追い詰められていた作曲家の個人的な事情も反映していよう。

アルマは1910年6月、湯治先で知り合った建築家ヴァルター・グローピウスと恋に落ち、その関係は交響曲の作曲中だったマーラーの知る所となる。不倫騒動はひとたび落ち着くものの、自らは作曲を志しながら結婚にあたって道をあきらめたアルマの精神は、指揮者・作曲家のキャリアを邁進して家庭を顧みる余裕のない夫に対して限界にあった。事件によってマーラーが負った心の傷は深く、譜面の随所にアルマへの思いが書き込まれ、苦悩から逃れるために精神科医ジークムント・フロイトの診断も受けたほどだった。マーラーの音楽に表現された死生観は、この事件によって一層の陰影と複雑さを帯びることになる。

〈江藤光紀 音楽評論家〉

作曲：1910年、未完成／初演：1924年、ウィーン／演奏時間：約25分

楽器編成／フルート3（ピッコロ持替）、オーボエ3、クラリネット3、ファゴット3、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、チューバ、ハーブ、弦五部

## チャイコフスキー

## ピアノ協奏曲 第1番 変口短調 作品23

1874年、34歳のピョートル・チャイコフスキー（1840～93）は最初のピアノ協奏曲に取り組んだ。ソリストとして念頭に置いていたのは長友ニコライ・ルビンシテイン。まずは2台ピアノ版を書きあげてルビンシテインに披露したところ、思わぬ酷評が返ってきた。「ありきたりで低俗」「陳腐でこちない」「2、3ページを除いて、書き直すか、捨てる必要がある」。チャイコフスキーは激怒して「一音たりとも書き直すつもりはない」と答えたという。

初演者を失ったチャイコフスキーだが、知人からの提案を受けて、名ピアニストで指揮者でもあったハンス・フォン・ビューローに初演を依頼する。作品を渡されたビューローは「これほど力強く気高い作品を知らない」「すべてのピアニストに感謝されるだろう」と絶賛し、アメリカ・ツアーでの演奏を約束した。ボストンでの初演は大成功を収め、アメリカでの評判はヨーロッパにも伝わった。やがてルビンシテインも考えを改めて、自身のレパートリーとしてこの曲を愛奏することになった。

**第1楽章** アレグロ・ノン・トロppo・エ・モルト・マエストロソ～アレグロ・コン・スピーリト 決然とした導入部分がよく知られるが、この主題は以後登場しない。主部の第1主題は作曲者がウクライナのカメンカで耳にした民謡に由来する。

**第2楽章** アンダンティーノ・センブリーチェ 弦楽器のピッツィカート伴奏でフルートが伸びやかな主題を奏で、これに独奏ピアノが応答する。中間部は活発で、スケルツォ風でもありワルツ風でもある。

**第3楽章** アレグロ・コン・フォーコ ウクライナ民謡に基づく躍動感あふれる主題で開始され、熱狂的な楽想が展開される。独奏ピアノとオーケストラのスリリングな応酬を経て、壮烈なクライマックスを築きあげる。

〈飯尾洋一 音楽ライター〉

作曲：1874～75年、79年改訂、88～89年再改訂／初演：1875年10月25日、ボストン／演奏時間：約32分  
楽器編成／フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦五部、独奏ピアノ

## ドヴォルザーク

## 交響曲 第9番 ホ短調 作品95〈新世界から〉

人生において異国で新たな挑戦を始めるとしたら、何歳まで可能だろうか。チェコの作曲家アントニン・ドヴォルザーク（1841～1904）のもとに、新大陸アメリカから思わぬオファーが届いたのは1891年のこと。裕福な食品卸売業の夫を持つジャネット・サーバーから、ニューヨークに設立するナショナル音楽院の院長に就任してほしいと依頼されたのである。すでにヨーロッパで名声を築き、この年50歳を迎えるドヴォルザークは、当初この依頼を断った。ジェット機が飛び交う現代と違い、アメリカは長い船旅を要するはるか彼方の新世界。50歳にもなってそんな冒険が必要だろうか。だがサーバー夫人は粘り強く交渉を続け、桁外れの高額報酬を提示した。ドヴォルザークは悩んだ末にアメリカ行きを決意する。

この決断は、ドヴォルザークに経済的利益ばかりか芸術上の大きな収穫をもたらすことになった。ドヴォルザークはアメリカで黒人霊歌や先住民の音楽から多くの刺激を受ける。そして新世界から得たインスピレーションと祖国への望郷の念を、自ら「わずかにアメリカ風である」と認める交響曲第9番へと結実させた。

**第1楽章** アダージョ～アレグロ・モルト 予感に満ちたゆるやかな序奏に、緊迫感みなぎる主部が続く。決然として雄渾な楽想がくりひろげられる。

**第2楽章** ラルゴ イングリッシュ・ホルンによる郷愁を誘うメロディは、「遠き山に日は落ちて」あるいは「家路」の題でもよく知られる。

**第3楽章** モルト・ヴィヴァーチェ 民俗舞曲風の活発なスケルツォ。トライアングルの使用が印象的。

**第4楽章** アレグロ・コン・フォーコ あたかも機関車が徐々に速度をあげて爆走するかのよう開始される。全曲でただ一度、シンバルが控えめに鳴る場面は、大の鉄道ファンだった作曲者が密かに仕込んだ「列車の連結音」か。

〈飯尾洋一 音楽ライター〉

作曲：1893年／初演：1893年12月16日、ニューヨーク／演奏時間：約40分  
楽器編成／フルート2（ピッコロ持替）、オーボエ2（イングリッシュ・ホルン持替）、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器（トライアングル、シンバル）、弦五部

4/24

土曜マチネー

4/25

日曜マチネー

Program Notes

## ベルリオーズ

## 序曲〈ローマの謝肉祭〉 作品9

謝肉祭とは、キリスト教会暦の四旬節の直前に行う世俗的な祝祭を指す。四旬節は、復活祭まで6週間と4日となる「灰の水曜日」に始まる<sup>さいかい</sup>齋戒期で、初日から復活祭の終わりまで、信徒は肉食を一切しない。その直前に「肉の食べ納め」をするのが謝肉祭というわけだ。

この謝肉祭はさまざまなアートの題材となってきた。音楽の世界ではエクトル・ベルリオーズ（1803～69）の〈ローマの謝肉祭〉をもっと有名な作品のひとつと言ってよいだろう。作曲は1844年。ただし、その素材自体はもっと早くに出来上がっていた。

ベルリオーズは1838年、オペラ〈ベンヴェヌート・チェッリーニ〉を初演した。作曲家は30年代前半、パリ・オペラ座での成功を目指し、この作品の制作に取り掛かっていた。はじめシェイクスピアの『ハムレット』を題材に検討したが、16世紀の彫刻家チェッリーニの自叙伝に出会ったことで方針を転換。理想の芸術家像を劇的に表現するこの彫刻家を主人公に、2幕もののオペラを書き上げた。

このオペラの上演はベルリオーズの思惑に反し、大失敗に終わる。ただ、大きな成果も生んだ。それが序曲〈ローマの謝肉祭〉だ。作曲家は上記のオペラから音楽的な題材を取り出し、演奏会用序曲を編んだ。この作品は以後、コンサートの呼び物となっている。

冒頭は謝肉祭の開始を告げる短い楽句。それを受けてイングリッシュ・ホルンが「歌い出す」。このメロディーは〈ベンヴェヌート・チェッリーニ〉第1幕の二重唱「自分の命よりも愛するあなたを」からの引用だ。この旋律の変奏がしばらく続いた後、謝肉祭の“本番”が始まる。この軽快な部分は同第1幕の合唱「来たれ、ローマの人々よ」からの転用。オペラのこの部分は、謝肉祭に沸くローマのコロンナ広場を活写している。こちらもひとしきり変奏を重ねる。最後に各パートが結集、賑々しく曲を閉じる。

〈澤谷夏樹 音楽評論家〉

作曲：1844年／初演：1844年2月3日、パリ／演奏時間：約8分

楽器編成／フルート2（ピッコロ持替）、オーボエ2（イングリッシュ・ホルン持替）、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、コルネット2、トロンボーン3、ティンパニ、打楽器（トライアングル、シンバル、タンブリン）、弦五部

## サン＝サーンス

## ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 作品61

1870年代から80年代にかけて、カミーユ・サン＝サーンス（1835～1921）は創作期の盛りを迎えていた。当時、作曲家は必ずしも恵まれた私生活を送っていたわけではない。1875年に40歳で結婚。21歳年下の妻と生活を始めるが、歯車が噛み合わない。夫妻は二人の息子をもうけたが、事故と病気で相次いで子供たちを失う。夫は妻に当たり散らす。妻は堪えきれず、81年に失踪した。

こうした状況にあって創作の筆がはかどるのは、作曲家がその私生活を音楽の現場に持ち込まないタイプだったからか、はたまた、逆境をバネに仕事に打ち込むタイプだったからか。いずれにせよこの時期、サン＝サーンスはピアノ協奏曲第4番、歌劇〈サムソンとデリラ〉、ヴァイオリン・ソナタ第1番、交響曲第3番〈オルガン付き〉といった傑作を量産していた。ヴァイオリン協奏曲第3番も、その列に連なる名曲のひとつだ。完成は1880年。翌年1月、被献呈者のヴァイオリニスト、サラサーテを独奏者に迎え、パリで初演された。

**第1楽章**冒頭、布をジグザグと縫い進めるような音型と、長短短リズムのモチーフとのユニットが、独奏ヴァイオリンによって示される。以後、それらはそれぞれ引き伸ばされたり縮められたり、ときには融合させられたりしながら、独奏と管弦楽との間を行ったり来たりする。

**第2楽章**はバルカロール（舟歌）風。波のさざめくような伴奏形が特徴的だ。独奏と管弦楽とが音型をやりとりしながら音楽を前に進めていくが、その様子は水辺に打ち寄せては返す小波のよう。第1楽章とは対照的に楽想は穏やか。

**終楽章**はヴァイオリンの技巧的な独奏で始まる。続く主部は速い3拍子系の舞曲ジグ。静かな部分を挟んで序奏を回想したのち、ジグを再現する。やがて金管楽器群による讚美歌風の楽句を呼び水に、華々しく終結へと向かう。

〈澤谷夏樹 音楽評論家〉

作曲：1880年／初演：1881年1月2日、私的演奏会にて、パリ／演奏時間：約29分

楽器編成／フルート2（ピッコロ持替）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦五部、独奏ヴァイオリン

4/24

土曜マチネー

4/25

日曜マチネー

Program Notes

4/24

土曜マチネー

4/25

日曜マチネー

Program Notes

## ムソルグスキー (ラヴェル編) 組曲〈展覧会の絵〉

ロシア国民楽派「五人組」のひとりモデスト・ムソルグスキー (1839～81) は、ロシア民謡由来の音階や和声を巧みに用い、その秀でた描写力と風刺の才能で数々の作品を手がけた。ピアノ組曲〈展覧会の絵〉は、急逝した友人の画家で建築家のヴィクトル・ハルトマン (1834～73) の回顧展で得た印象をもとに書かれた。

しかし作品は、作曲家の生前に演奏されることはなく、1886年にリムスキー＝コルサコフの校訂で楽譜が出版された。有名なモーリス・ラヴェル (1875～1937) による編曲版は、1922年に指揮者クーセヴィツキーの依頼で作られた。ラヴェルは、原曲の第6曲と第7曲の間のプロムナードを削除するなど若干の手を加えているが、原曲の粗野な味わいを残しながら、「管弦楽の魔術師」と言われたラヴェルらしい洗練された音楽に仕上げた。

**プロムナード**：ロシア的な五音音階の主題がトランペット独奏で奏される。**第1曲「グノームス」** タイトルはラテン語。こびとの不気味な姿が描かれる。**プロムナード**：主題はホルンに現れる。**第2曲「古城」** ファゴットに導かれ、サクソフォンが哀しげな旋律を歌う。**プロムナード**：トランペットが重々しく響かせる。**第3曲「テュイルリー」** フランスの庭園で子供たちが遊んでいる様子。**第4曲「ビドロ」** ポーランドの牛車。チューバ独奏で進む。**プロムナード**：寂しげな木管の響き。**第5曲「殻をつけた雛鳥のバレエ」** ユーモラスな木管主体のスケルツォ。**第6曲「サムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ」** 二人のユダヤ人の会話。威圧的な態度と卑屈な性格を対比させる。**第7曲「リモージュ」** フランスの市場の喧騒。**第8曲「カタコンブ」** 古代ローマの墓。金管の和音が不気味に響く。続く「死せる言葉による死者への呼びかけ」はプロムナードの変奏。**第9曲「鶏の足の上の小屋」** 伝説のバーバ・ヤガーのグロテスクな音楽。**第10曲「キエフの大門」** オーケストラ全体が巨大な鐘のように鳴り響く。

〈柴辻純子 音楽評論家〉

作曲：1874年、編曲：1922年／初演 (ラヴェル編曲版)：1922年10月19日、パリ／演奏時間：約35分  
楽器編成／フルート3 (ピッコロ持替)、オーボエ3 (イングリッシュ・ホルン持替)、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、アルトサクソフォン、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、バリトン、ティンパニ、打楽器 (大太鼓、シンバル、トライアングル、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、ムチ、ラチェット、シロフォン、グロッケンシュピール、銅鑼、鐘)、ハープ2、チェレスタ、弦五部

## リムスキー＝コルサコフ 〈ロシアの復活祭〉序曲 作品36

ニコライ・リムスキー＝コルサコフ (1844～1908) は名高い軍人一族に生まれた。一家の伝統を受け継ぎ、自らも軍人になるべく海軍士官学校で学んだが、バラキレフと出会ったことをきっかけに本格的に作曲に打ち込むようになる。一方、ふたりの祖母は平民の出身で、ひとりには聖職者の娘であり、もうひとりには農民だった。リムスキー＝コルサコフは祖母たちから、宗教的儀式と民謡への愛着を受け継いだと述べている。

1883年から84年にかけて、バラキレフが帝室礼拝堂合唱団の音楽監督に任命されると、リムスキー＝コルサコフはそのアシスタントを務めることになった。決して信仰心が篤いとは言えなかったリムスキー＝コルサコフが、あえて聖歌の主題を用いた〈ロシアの復活祭〉序曲を作曲したのは、バラキレフとともにロシア正教の典礼音楽に触れた体験と、少年期からの親近感があってのことだろう。作曲は1888年。同年に交響組曲〈シェエラザード〉も書かれている。海軍士官としての経験が〈シェエラザード〉での海の描写に生かされ、宗教的儀式への親しみが〈ロシアの復活祭〉を生み出したと考えれば、リムスキー＝コルサコフは自身のルーツをふたつの管弦楽曲に反映させたと見ることができる。両作をもって作曲家は管弦楽曲の分野から離れ、以後はオペラへと活動の軸足を移した。

リムスキー＝コルサコフはこの作品で「受難の土曜日の陰鬱で神秘的な雰囲気から、復活祭の日曜日の朝の思いきり楽しい集いへの気分の移り変わり」を表現したかったという。冒頭の木管楽器による主題は、ロシア正教の標準聖歌集「オビホード」から採られたもの。この荘重な主題は以後たびたび登場して、厳かな雰囲気を醸し出す。金管楽器による短いファンファーレを機に、活気にあふれた楽想がくりひろげられ、やがて華やかな祝祭感に満たされる。

〈飯尾洋一 音楽ライター〉

作曲：1888年／初演：1888年12月15日／演奏時間：約14分  
楽器編成／フルート3 (ピッコロ持替)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器 (大太鼓、トライアングル、シンバル、サスペンデッド・シンバル、銅鑼、グロッケンシュピール)、ハープ、弦五部

4/30

名曲

Program Notes

## 藤倉 大

## 箏協奏曲 (管弦楽版/世界初演)

## 藤倉 大

この曲は、若きソリストLEOさんから個人委嘱を受けて作りました。この前に、LEOさんに僕が書いたソロの作品「竜」がベースになっています。

「竜」を作る時、LEOさんと頻りにやり取りしました。最初は数年前の年末にオンラインで。僕はまず、箏を選んだ理由を聞きました。人生の多くの時間をある楽器に捧げる決意には、何か強い理由があるはずだから。演奏家の楽器への思いは、必ず作品を作る上でのインスピレーションにします。その日LEOさんと試した奏法、コンビネーションが僕の頭から離れず、作曲に取り掛かるのは少し先を予定していたのに、気が付いたら冒頭の断片を書いていた。その断片の演奏録音がLEOさんから勢いよく毎日数回届き、聴くと続きが書きたい……これを繰り返しました。

日本の楽器に曲を書く時、僕は必ずその楽器の伝統的な奏法を研究します。そこには、西洋音楽では実験的奏法になる技法が、もう何百年も使われています。それらをどう組み合わせたら、今までにないような日本の伝統楽器のための音楽になるのか、それでいてその楽器の、そして奏者の良さが炸裂する音楽になるかを、奏者と一緒に研究して作っていきます。

オーケストラの部分は、箏から出る音がどう拡大されるか、それは音量の拡大ではなく、音楽のイメージとして広がるか、を目指して書きました。箏に羽が付き、箏のパートが羽ばたいていくのをオーケストラが助ける、といった感じでしょうか。オーケストラはその想像上のスーパー箏の一部として、箏と一体化する……そんなことを夢見て作りました。

作曲：2020年/初演：2021年4月30日、サントリーホール/演奏時間：約20分  
楽器編成/フルート2 (ピッコロ持替)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット、コントラファゴット、ホルン2、トランペット2、打楽器 (ヴィブラフォン)、弦五部、独奏箏

## ■藤倉 大 Dai Fujikura

1977年大阪生まれ。15歳で渡英し、ジョージ・ベンジャミンらに師事。ザルツブルク音楽祭、BBCプロムス、シカゴ響などから作品を委嘱され、国際的な共同委嘱も多い。数々の著名な作曲賞を受賞し、2017年には革新的な作曲家に贈られるヴェネツィア・ビエンナーレ音楽部門銀獅子賞を受賞。東京芸術劇場で開催される、世界中の“新しい音”が聴ける「ポンクリ・フェス」のアーティスティック・ディレクターを務めている。録音はソニーミュージックや自身が主宰するMinabel Recordsから、楽譜はリコルディ・ベルリンから出版されている。

## ベートーヴェン

## 交響曲 第7番 イ長調 作品92

1811年、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827) は夏を温泉保養地で過ごした後、ウィーンに戻って本格的に交響曲第7番の作曲に取り組む。交響曲としては、第5番〈運命〉と第6番〈田園〉を1808年に完成してから3年のブランクを経ての新作となった。1812年の4月頃に曲を書きあげたものの、ここから初演に至る道のりは平坦ではなかった。1813年にルドルフ大公邸で試演されるも、公開初演の計画は戦争によるウィーン経済の混乱もあって頓挫してしまう。

そこにメトロノームの考案者として知られるメルツェルから、ウェリントンの勝利 (イギリス軍がフランス軍に勝利を収めた) を祝う時事的な新作を書いてはどうか、という提案が届く。ベートーヴェンはこれを受諾して〈ウェリントンの勝利〉を作曲した。時流に乗ったこの作品と合わせて、同年12月に交響曲第7番の初演がようやく実現する。商才に富んだメルツェルの狙い通り〈ウェリントンの勝利〉はウィーンの音楽界に旋風を巻き起こし、公演は異例の大成功を収めた。話題の主演となったのは〈ウェリントンの勝利〉だが、交響曲第7番も好評を博し、特に第2楽章はアンコールが求められた。

**第1楽章** ポコ・ソステヌート〜ヴィヴァーチェ 堂々とした大規模な序奏で開始され、軽快な付点リズムの反復が躍動感あふれる主部を導く。

**第2楽章** アレグレット 痛切な主題は粛々と歩む様子を連想させる。主題を変奏させながら次第に高揚し、悲劇的な頂点を築く。

**第3楽章** プレスト 鋭く弾むような急速なスケルツォと田園風のひなびたトリオが交代する。

**第4楽章** アレグロ・コン・プリオ 叩きつけるようなリズムを執拗に反復しながら、陶酔的な興奮と熱狂を呼び起こす。

〈飯尾洋一 音楽ライター〉

作曲：1811~12年/初演：1813年12月8日、ウィーン大学講堂/演奏時間：約36分  
楽器編成/フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦五部



プロの音楽家は、料理や登山、サイクリングなど多種多様な趣味を持っています。読響の年間ブックレットにも、そんなホビ－の世界が全開になった楽しいページがありましたね。いろいろな趣味がある中で、実は結構多いのがゲーム好きな音楽家！考えてみれば、楽譜を間違えずに演奏することも、隣の人と合わせて弾くのも、指揮者の謎めいた動きを読み解くのも(!?)、ゲームそのもの。複雑な拍子が出てきたり、ソリストがどのくらい揺れて弾くかアンテナを張り巡らしたり、めちゃくちゃ速く正確に指を動かしたり、オーケストラの音楽にはスリル満点な「ゲーム」がたくさんあります。そう、音楽をする上で「ゲーム感覚」は欠かせないものなのかもしれません。

歴史を振り返ってみると、モーツァルトは2つのサイコロを振った目で音符が決まっていく〈音楽のさいころ遊び〉K. 516fを作っています。「音楽や作曲の知識なしにワルツやシュライファー（3拍子の田舎風の踊り）が作曲できる」という、作曲のゲーム感覚を活かした作品。リヒャルト・シュトラウスは、オペラを指揮しているときにふと腕時計を見て「このままじゃランプの約束に間に合わない！」と、がぜん猛スピードで指揮をし始めたという逸話もありますし、ストラヴィンスキーは〈カルタ遊び〉という、ポーカーの様子を描いた楽しいバレエを書いています。「1幕」「2幕」……の代わりに「1ディー」「2ディー」……と呼ぶユーモアも抜群。主人公はどんなカードにもなるジョーカーです。今月〈箏協奏曲〉を世界初演する作曲家の藤倉大さんもドラクエ好きな様子をツイートされていますし、作曲家の人たちもみんなゲームはお好きなようですね。

かくいう私もそんなひとり。子どもの頃、家にゲーム機はなかったのに友達の家で転がり込んで遊んでいました。将棋も大好きですし、最近ではヴェルビエ音楽祭でバックギャモンの魅力を教えられて、時折遊んでいます。

みなさんはどんなゲームがお好きですか？

※このコラムは不定期で掲載します。

## 入退団のお知らせ



退団：浦 丈彦（オーボエ奏者）

浦丈彦（オーボエ奏者）が3月31日付で退団しました。2002年2月に入団して以来、19年にわたって活躍しました。



入団：林 悠介（コンサートマスター）

林悠介が、4月1日付で、コンサートマスターとして入団しました。就任にあたって「読響の実力、そして楽団の温かい雰囲気にとっても魅力を感じており、今回の就任を大変光栄に思っています。18年間欧州で活動してきましたが、これまでの経験も生かし、音楽のすばらしさを皆様にお伝えできるようさらに精進します」と抱負を述べています。

林は、ブレスリア国際コンクール、ルイス・シガール国際コンクールに優勝し、ニールセン国際コンクール、ハノーファー国際コンクールなどで入賞。チリ国立響、パドヴァ・ヴェネト管と共演し、ソロや室内楽で活躍。ハノーファー北ドイツ放送フィルの副コンサートマスター、ヴッパータール響の第1コンサートマスターなどを歴任しました。

## 小林研一郎が恩賜賞、鈴木優人が芸術選奨新人賞を受賞

読響の特別客演指揮者を務めている小林研一郎が、令和2年度（第77回）恩賜賞・日本芸術院賞を受賞しました。小林研一郎の指揮者としての活動を中心とした音楽芸術全般において、日本における音楽文化の発展及び国際的発信における功績は顕著であること、加えて教育面での貢献も大きく、音楽人として素晴らしいモデルになっていることから、今回の受賞となりました。

また、読響の指揮者/クリエイティブ・パートナーを務めている鈴木優人が、令和2年度（第71回）芸術選奨文部科学大臣新人賞（音楽部門）を受賞しました。鈴木優人は、コロナ禍という厳しい環境の中で活動の場を飛躍的に広げました。中でも、活動再開後の当団最初の《特別演奏会》、《第603回定期演奏会》、《第27回読響アンサンブル・シリーズ》、オンラインによる調布国際音楽祭のプロデュースやヘンデルのオペラなど、様々な舞台で才能を遺憾なく発揮したことが評価されました。



小林研一郎  
©読響



鈴木優人  
©Marco Borggreve

## 団員紹介

首席オーボエ奏者

**金子亜未**

AMI KANEKO

・2020年2月入団



—オーボエを始めたきっかけは？

小学4年の時に管弦楽部に入り、人数が不足していたオーボエを選びました。それからオーボエ一筋です。6年から高校1年頃までは千葉県少年少女オーケストラに所属し、週末は片道約1時間かけて通っていました。井上道義さん、山田和樹さん、現田茂夫さん、宮川彬良さんが指揮をしてくださり、その頃から一流の指揮者やソリストと共演できたことに感謝でいっぱいです。高校時代は吹奏楽部に入部。顧問の先生からN響の和久井仁先生をご紹介いただき、弟子入りしました。先生が毎週日曜日の「N響アワー」で演奏されるのを拝見し、自分もプロのオーケストラの一員になりたいと思うように。その後、東京芸大で学び、札幌、新日本フィルを経て、昨年2月読響に入団しました。

—オーボエの魅力とは？

一番の魅力は音色だと思います。オ

ーボエはリード作りが大変で悩まされることも多いですが、それこそが良さでもあります。リードは天然物なので、二度と同じものはできません。そして繊細なため、演奏会場の湿度や温度などでも刻々と変化していきます。そんな中でも、一期一会のリードと最高の演奏をするべく努力していけるところが魅力的です。

—好きな作曲家は？

ドヴォルザークのチェロ協奏曲やセレナーデ、シンフォニーが好きです。札幌時代にチェコ出身の指揮者、故ラドミル・エリシュカさんと何度かドヴォルザークの作品を演奏する機会がありました。チェコの作品を指揮するときのエリシュカさんの魂のこもった指揮を心に留めて、これからも演奏したいです。

—趣味は何ですか？

高校では家政科にいたこともあり、編み物やレザークラフト、他にもダーツ、旅行、温泉などです。食べることと寝ることがとにかく好きです！

—お客様に一言メッセージをお願いします。

音楽を届けられることがいかに幸せなことか、再確認できた1年となりました。健康第一で精進して参ります！

**Profile** 千葉県出身。2012年東京芸術大学を首席で卒業。安宅賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞受賞。日本管打楽器コンクール第1位。日本音楽コンクール第3位。札幌交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団の首席奏者を経て、20年2月、読響に入団。17年フォンテックより初のソロCD『Voyage』をリリース。

# 0テレ

# 読響のプレミア

*Yomikyo Premier*

月1回放送 [BS日テレにて地上波放送の翌週土曜日再放送]

## 4月22日(木)

午前2:34~3:34 (水曜深夜) 放送予定

[再放送] BS日テレ 5月1日(土)

朝7:00~8:00 放送予定

指揮=山田和樹

ニールセン:交響曲第4番<不滅> ほか



山田和樹 ©読響

4月は読響首席客演指揮者の山田和樹が登場！ ニールセンの交響曲第4番<不滅>をお届けします。マエストロ山田×読響が送る、劇的で壮大なサウンドにどうぞご期待ください。

放送内容は変更の可能性がありますのでご了承ください

<http://www.ntv.co.jp/yomikyo/>

「読響プレミア」ホームページ

番組情報・公開録画のお知らせもコチラから

読響の演奏動画はhuluで配信中!

ブルックナー:交響曲第9番 指揮=セバスティアン・ヴァイグレ

ベートーヴェン:交響曲第9番<合唱付き> 指揮=マッシモ・ザネッティ

\*ほかにも読響の熟演を順次ノーカットで配信予定!

## 5月20日(木)

午前2:29~3:29 (水曜深夜) 放送予定

[再放送] BS日テレ 5月29日(土)

朝7:00~8:00 放送予定

指揮=山田和樹

リスト:交響詩<前奏曲>

R.シュトラウス:交響詩<死と変容>



公演の様相から

“世界のヤマカズ”が再登場！ 作曲家自身がスコア冒頭に記した「人生は死への前奏曲」リスト<前奏曲>、「憧れ求めた世界救済と浄化へ……」シュトラウス<死と変容>。不滅の名曲2題をお楽しみください。

## 読売日本交響楽団 ご支援のお願い

読売日本交響楽団では、皆様方から広くご支援・ご声援をいただけるよう、個人賛助会員システムがございます。

日本を代表するオーケストラとしてさらに飛躍し、社会的な使命を果たすには、より多くの皆様からのご支援が必要です。読響が奏でる音楽によって心豊かな社会を共に作っていくために、ぜひとも賛助会員としてお力添えをお願い申し上げます。

### ■ 個人賛助会員 期間：ご入会月から1年間

※状況により実施できない場合がございます。

	1口1万円	1口30万円
定期演奏会ご案内	—	○
主催公演 優先予約※1	○	○
主催公演チケット 優待販売※1	○	○
公開リハーサル※2	○	○
公開録画 入場引換券※3	○	○
プログラム誌・HP 芳名記載	○	○

※1 対象外の公演もございます。

※2 年間2回を予定しております。1口1万円につき、1名様のご案内となります。

※3 席数限定でのご用意となり、応募者多数の場合は抽選となります。

### ■ 法人賛助会員

1口30万円 期間：ご入会月から1年間

#### 〈税制上の優遇措置について〉

読売日本交響楽団は内閣府より「公益財団法人」の認定を受けており、当楽団へのご寄付には税制上の優遇措置がございます。詳細は賛助会員担当にお尋ねください。

#### 賛助会員 お問い合わせ・お申し込み

公益財団法人読売日本交響楽団 賛助会員担当

TEL: 03-5283-5215 (平日 10:00~17:00)

E-mail: support@yomikyo.or.jp

## 賛助会員名簿 (敬称略、五十音順)

いつもあたたかいご支援を賜り、ありがとうございます。

### 〈法人賛助会員〉

(2021年3月現在)

アサヒグループホールディングス(株)	非破壊検査(株)
(一財) ITOH	(株)フォアキャスト・コミュニケーションズ
HJホールディングス(株)	文化シャッター(株)
NTTコミュニケーションズ(株)	(株)ベスト・ワン保険
小田急電鉄(株)	(株)報知新聞社
キヤノン(株)	松田運送(株)
(株)弘電社	(株)みずほ銀行
(株)CS日本	(株)三井住友銀行
(株)シミズオクト	(株)三菱地所設計
清水建設(株)	(株)目の眼
新菱冷熱工業(株)	森平舞台機構(株)
大成建設(株)	安田不動産(株)
(株)竹尾	(株)大和通信社
(株)中央公論新社	ユニデンホールディングス(株)
(株)電通	(株)読売IS
(株)東急ホテルズ	(株)読売エージェンシー
(株)東京ドーム	(株)読売巨人軍
ニッセイ保険エージェンシー(株)	(株)読売広告社
(株)日テレ アックスオン	(株)読売システック
日本コンピューターサイエンス(株)	読売不動産(株)
日本テレビ音楽(株)	(株)読売プラス
蜂屋(株)	(株)よみうりランド
びあ(株)	(株)読売旅行
(株)BS日本	ローム(株)

ほか1社

〈個人賛助会員〉

白木 秀男  
千葉 信之  
K・K  
K・T  
Y・I  
ほか1名

相澤 哲也  
穴原 謙  
荒井 顕祈  
石川 修  
石坂 廬  
石田 米和  
石橋 友佳子  
石引 瑞枝  
伊藤 志摩  
伊藤 真也  
伊藤 澄玲  
稲富 武二  
井浪 涼  
井上 直人  
今西 至  
岩瀬 順子  
臼井 年胤  
宇田川 昌子  
榎本 悠介  
大木 茂男  
大塚 啓一  
大塚 具幸  
大野 勝茂  
大湯 淳功  
岡本 耕治  
荻野 郁代  
小倉 嘉五郎

尾崎 芙美子  
小野 悦男  
香取 嘉信  
金谷 伸一  
金子 圭一  
上村 昌彰  
岸 道郎  
木下 盛弘  
木村 幸男  
草間 和幸  
熊坂 久雄  
黒永 美奈子  
好士崎 稔子  
後上 友美  
小木曾 孝  
小納谷 秀秋  
小林 京子  
小林 敬和  
小林 宏慈  
小林 裕子  
小林 佳子  
齋藤 正博  
末松 直也  
鈴木 勝康  
鈴木 幹浩  
高倉 淳  
高仲 裕樹  
高橋 光子  
竹内 牧  
谷口 豊  
谷山 信  
田村 敦志  
坪井 和音

戸田 晴久  
富永 英義  
鳥井 加代子  
鳥越 久里  
仲井 淳一  
永井 洋一  
中曾根 秀岳  
中村 仁美  
中山 精一  
新倉 啓介  
西尾 秀一  
西澤 豊  
根本 直之  
濱田 正己  
林 路郎  
響城 れい  
福本 邦彦  
藤澤 光昭  
藤島 秀憲  
堀田 尚宏  
堀 哲也  
本間 美彩  
真木 太郎  
松浦 睦桐  
松尾 十作  
松島 常  
松田 浩美  
松田 政信  
松野 良子  
圓尾 雅則  
溝部 信夫  
皆川 雅俊  
宮坂 京子

(2021年3月現在)

宮坂 正大  
宮本 嗣巳  
森田 りえ  
矢向 真  
安富 康男  
山際 茂雄  
山越 章弘  
山下 言彦  
吉田 幸三  
吉村 真人  
竜 夏美  
若田部 矩弘  
脇 映夫  
渡辺 敦郎  
誠司・眞実子  
A. H  
A. K  
K. K  
K. S  
K. Y  
M. N  
M. O  
R. H  
T. N  
T. O  
T. Y  
Y. N  
FMI  
Jefery  
nakaga8  
S, Jack  
Yuki  
ほか34名

賛助会員(個人)の税制上優遇措置について

読響へのご寄付は、確定申告を行っていただくことで税制上の優遇措置を受けることができます。2019年10月25日以降のご寄付は、従来の「所得控除」の他に「税額控除」を選択できるようになりました。

また、都道府県・市区町村によっては、個人住民税控除の対象となる場合もあります。

東京芸術劇場主催公演のご案内

東京芸術劇場  
Tokyo Metropolitan Theatre

コンサート・カレンダー | 2021 4 - 2022 3 | Concert Hall 読響

東京芸術劇場と読響日本交響楽団は事業提携を行っています。

ランチタイム・パイプオルガンコンサート スケジュール

Vol.144	5/27 [木]	オルガン: 大平健介	発売中
Vol.145	9/14 [火]	オルガン: 佐川 淳	一般発売: 5/27(木)
Vol.146	11/11 [木]	オルガン: 勝山雅世	一般発売: 9/14(火)
Vol.147	2022 3/10 [木]	オルガン: 北村あゆ美	一般発売: 11/11(木)



【各回】12:15 開演 (11:15 開場) ※12:45 終演予定 全席指定 (税込) | 500 円

※ランチタイム・パイプオルガンコンサートは、新型コロナウイルス感染症対策に伴い当面の間、全席指定にて販売いたします。

ナイトタイム・パイプオルガンコンサート スケジュール

Vol.36	4/22 [木]	オルガン: 中野ひかり トランペット: 神代修	発売中
Vol.37	6/24 [木]	オルガン: 菅 哲也	一般発売: 4/22(木)
Vol.38	10/14 [木]	オルガン: 長山結、ディック・コーマンス	一般発売: 6/24(木)
Vol.39	12/16 [木]	オルガン: 小林英之	一般発売: 10/14(木)
Vol.40	2022 2/22 [火]	オルガン: フランソワ・エスピナス	一般発売: 12/16(木)



【各回】19:30 開演 (18:30 ロビー開場) ※20:30 終演予定 全席指定 (税込) | 1000 円

パイプオルガン講座 2021

第 87 回 - 特別編 - 芸劇のオルガンを弾こう!

2022 1/13 [木] 【受講料】(税込) | 各回 2,000 円 (定員各回 6名) 一般発売: 11/17(水)

10:00	11:00	12:00
ルネサンス&バロック・オルガンの試奏		
13:30	14:30	15:30
モダン・オルガンの試奏		

※芸劇のオルガンをお一人様 10 分間限定で試奏いただけます。

【講師】新山恵理、平井靖子、川越聡子 (東京芸術劇場副オルガニスト)

第 86 回 レジストレーションの実践 ~ ドイツ

2022 11/11(木) 14:00 一般発売: 9/14(火) 【講師】小林英之 (東京芸術劇場オルガニスト) 【副講師】新山恵理

第 88 回 レジストレーションの実践 ~ フランス

2022 3/10(木) 14:00 一般発売: 9/14(火) 【講師】川越聡子 (東京芸術劇場副オルガニスト) 【副講師】平井靖子

【受講料】各回 1,000 円 (税込) (定員各回 60名)

※高校生以上を対象とした内容になります。 ※本講座でのオルガン演奏はございません。 ※当日は歩きやすい靴でお越しください。

ご来場いただく 東京芸術劇場では、新型コロナウイルス感染症対策を実施しております。ご来場いただく際は、必ずホームページで注意事項や公演の最新情報をご確認 お願いします。また、体調不良が認められる場合は、ご入場をお断りする場合がございます。予めご了承ください。

東京芸術劇場 コンサートホール

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-8-1 [JR・東京メトロ・東武鉄道・西武鉄道]池袋駅西口徒歩 2 分 (池袋駅地下 2b 出口と直結)

チケット取扱 / お問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス TEL: 0570-010-296 (休館日を除く 10:00~19:00) <https://www.geigeki.jp/>

※観客者手帳をお持ちの方は、割引料金でご鑑賞いただけます。詳しくは劇場ボックスオフィス、または鑑賞サポートにてご確認ください (要事前予約)。  
※未就学児はご入場いただけません。  
※開演時間に遅れますと、しばらくの間ご入場いただけない場合や、ご自身でご案内できない場合がございます。  
※客席内でのソーシャル・ディスタンス確保のため、ご購入できるお席を一部制限しております。  
※やむを得ぬ事情により、出演者・曲目等が変更になる場合がございます。

託児サービスのご案内 東京芸術劇場でご鑑賞の際には、一時託児をご利用いただけます。  
株式会社ミラクス ミラクスシッター 0120-415-306 (土・日・祝日を除く平日 9:00~17:00)  
※有料・定員制・希望日 1 週間前 (土・日・祝日を除く) までに要予約。  
主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

Conductor

指揮者陣



常任指揮者  
セバスティアン・ヴァイグレ  
Sebastian Weigle



首席客演指揮者  
山田 和樹  
Kazuki Yamada



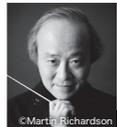
指揮者/クリエイティブパートナー  
鈴木 優人  
Masato Suzuki



桂冠指揮者  
シルヴァン・カンブルラン  
Sylvain Cambreling



名誉指揮者  
ユリ・テミルカーノフ  
Yuri Temirkanov



名誉客演指揮者  
尾高 忠明  
Tadaaki Otaka



特別客演指揮者  
小林 研一郎  
Ken-ichiro Kobayashi

Honorary Advisor

名誉顧問



高宮宮妃久子殿下  
Her Imperial Highness  
Princess Takamado

Concertmaster

コンサートマスター



コンサートマスター  
小森谷 巧  
Takumi Komoriya



コンサートマスター  
長原幸太  
Kota Nagahara



コンサートマスター  
林 悠介  
Yusuke Hayashi



特別客演コンサートマスター  
日下紗矢子  
Sayaka Kusaka

Violin

ヴァイオリン



瀧村依里(首席)  
Eri Takimura



赤池瑞枝  
Mizue Akaike



荒川以津美  
Izumi Arakawa



伊東真奈  
Mana Ito



井上雅美  
Masami Inoue



太田博子  
Hiroko Ota



小形 響  
Kyo Ogata



小田 透  
Toru Oda



鎌田成光  
Narumi Kamata



川口亮史  
Takashi Kawaguchi



久保木隆文  
Takafumi Kuboki



小杉芳之  
Yoshiyuki Kosugi



島田玲奈  
Reina Shimada



杉本真弓  
Mayumi Sugimoto



薄田 真  
Makoto Susukida



高木敏行  
Toshiyuki Takagi



武田桃子  
Momoko Takeda



對馬哲男  
Tetsuo Tsushima



寺井 馨  
Kaori Terai



肥田与幸  
Tomoyuki Hida



外園彩香(首席代行)  
Ayaka Hokazono



宮内 晃  
Akira Miyauchi



山田耕司  
Koji Yamada



山田友子  
Yuko Yamada

Viola

ヴィオラ



ソロ・ヴィオラ  
鈴木康浩  
Yasuhiro Suzuki



ソロ・ヴィオラ  
柳瀬省太  
Shota Yanase



榎戸崇浩  
Takahiro Enokido



小山貴之  
Takashi Koyama



正田響子  
Kyoko Shoda



富田大輔  
Daisuke Tomita



長岡晶子  
Akiko Nagaoka



長倉 寛  
Hiroshi Nagakura



二宮隆行  
Takayuki Ninomiya



三浦克之  
Katsuyuki Miura



森口恭子  
Kyoko Moriguchi



渡邊千春  
Chiharu Watanabe



ソロ・チェロ  
遠藤真理  
Mari Endo



富岡廉太郎(首席)  
Rentaro Tomioka



唐沢安岐奈  
Akina Karasawa



木村隆哉  
Takaya Kimura



芝村 崇  
Takashi Shibamura

Cello

チェロ



高木慶太  
Keita Takagi



林 一公  
Kazumasa Hayashi



松葉春樹  
Haruki Matsuba



室野良史  
Yoshifumi Muroto



渡部玄一  
Genichi Watanabe



ソロ・コントラバス  
石川 滋  
Shigeru Ishikawa



大槻 健(首席)  
Ken Otsuki



石川浩之  
Hiroyuki Ishikawa



小金丸章斗  
Akito Koganemaru



ジョナサン・ステファニアク  
Jonathan Stefaniak

Double Bass

コントラバス



瀬 泰幸  
Yasuyuki Se



高山健児  
Kenji Takayama



樋口 誠  
Makoto Higuchi

Flute

フルート



倉田 優(首席)  
Yu Kurata



フリスト・ドブリノフ(首席)  
Hristo Dobrinov



片爪大輔  
Daisuke Katazume



佐藤友美  
Yumi Sato

Oboe

オーボエ



金子亜未(首席)  
Ami Kaneko



北村貴子  
Takako Kitamura

Clarinet

クラリネット



金子 平(首席)  
Taira Kaneko



藤井洋子(首席)  
Youko Fujii



鎌田浩志  
Hiroshi Kamata



芳賀史徳  
Fuminori Haga

Bassoon

ファゴット



井上俊次(首席)  
Toshitsugu Inoue



吉田 将(首席)  
Masaru Yoshida



岩佐雅美  
Masami Iwasa



武井俊樹  
Toshiki Takei

Horn

ホルン



日橋辰朗(首席)  
Tatsuo Nippashi



松坂 隼(首席)  
Shun Matsuzaka



上里友二  
Yuji Uezato



伴野涼介  
Ryojuku Tomono



久永重明  
Shigeaki Hisanaga



矢野健太  
Kenta Yano



山岸リオ  
Rio Yamagishi

Trumpet

トランペット



辻本憲一(首席)  
Kenichi Tsujimoto



長谷川潤(首席)  
Jun Hasegawa



田中敏雄  
Toshio Tanaka



尹 千浩  
Cheonho Yoon

Trombone

トロンボーン



青木 昂(首席)  
Koh Aoki



栗田 晃(首席)  
Akira Kuwata



葛西修平  
Shuhei Kasai



篠崎卓美  
Takumi Shinozaki

Tuba

チューバ



次田心平  
Shimpei Tsugita

Timpani

ティンパニ



岡田全弘(首席)  
Masahiro Okada



武藤厚志(首席)  
Atsushi Muto

Percussion

打楽器



金子泰士  
Yasushi Kaneko



西久保友広  
Tomohiro Nishikubo



野本洋介  
Yosuke Nomoto



蠣崎耕三  
Kouzou Kakizaki



田島 勤  
Tsutomu Tajima



館市正克  
Masakatsu Tateichi



田村博文  
Hirofumi Tamura



福田高明  
Takaaki Fukuda



望月寿正  
Toshimasa Mochizuki



森川 徹  
Toru Morikawa

エルダー楽員

契約団員：岸本萌乃加(次席第1ヴァイオリン、～4月2日)、  
大澤理菜子(ヴァイオリン、4月8日～)

©読響(特記以外)

役員	理事長	福士千恵子				
	常任理事	津村 浩	石澤 顕			
	理事	梅田尚哉	大石久和	亀山郁夫	菊川雄士	黒崎太郎
		齋藤 理	竹内 寛	福田博之	福地茂雄	藤田和之
		村岡彰敏	山口多賀司			
	監事	一本 哉	前木理一郎			
	評議員	池辺晋一郎	江利川毅	老川祥一	大久保好男	大橋善光
		小杉善信	相良朋紀	佐藤 謙	但木敬一	玉井忠幸
		堤 剛	中村政雄	原俊一郎	原 孝文	肥田美代子
		福川伸次	マリ クリスティーナ	山口寿一	吉田 満	吉村秀男
		渡邊恒雄				

事務局	事務局長	津村 浩					
	事務局次長	安達幸一					
	専門委員・渉外担当	正岡美樹					
	経理担当	田口博善					
	事業課	課長	大久保広晴				
			伊藤香代	根本峰男	平井牧子	松岡 豊	田嶋美由紀
			日下舜太				
	制作課	課長	法木宏和				
			部坂祐貴乃	成田利沙			
	演奏課	課長	深川 弦				
		藤原 真	新谷琢人	小倉康平	武田若水		
総務課	課長	安達幸一(兼務)					
		杉山雄介	倉持徹也	菅原美和	山本明美	村岡紀枝	



## 読売日本交響楽団 プロフィール

読売日本交響楽団は1962年、クラシック音楽の振興と普及のために読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビのグループ3社を母体に設立された。スクロヴァチェフスキ、アルブレヒト、カンブルランなど、世界的なアーティストが歴代の常任指揮者を務め、2019年4月にドイツの名匠セバスティアン・ヴァイグレが第10代常任指揮者に就任した。

創立以来、著名な指揮者、ソリストと共演を重ねている。現在、名誉顧問に高円宮妃久子殿下をお迎えし、東京のサントリーホールや事業提携する東京芸術劇場などで充実した内容の演奏会を多数開催している。

2017年11月にはメシアンの歌劇〈アッシジの聖フランチェスコ〉(全曲日本初演)が好評を博し、『音楽の友』誌の「コンサート・ベストテン2017」で第1位となったほか、「第49回(2017年度)サントリー音楽賞」を受賞した。

このほか、社会貢献活動として、公益財団法人「正力厚生会」のがん患者助成事業に協力する「ハートフル・コンサート」や、小中学校での「フレンドシップ・コンサート」などを開催し、音楽文化のすそ野拡大にも地道な努力を続けている。

ホームページ <https://yomikyo.or.jp/>

月刊オーケストラ 4月号 2021年4月1日発行

編集発行人 津村 浩

編集 公益財団法人読売日本交響楽団

編集協力 株式会社中央公論新社

発行所 読売日本交響楽団 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-20 錦町トラッドスクエア6F  
Tel. 03-5283-5215 (代) Fax.03-5283-5222

印刷所 共同印刷株式会社

©2021 読売日本交響楽団 本誌記事の無断掲載を禁じます。